

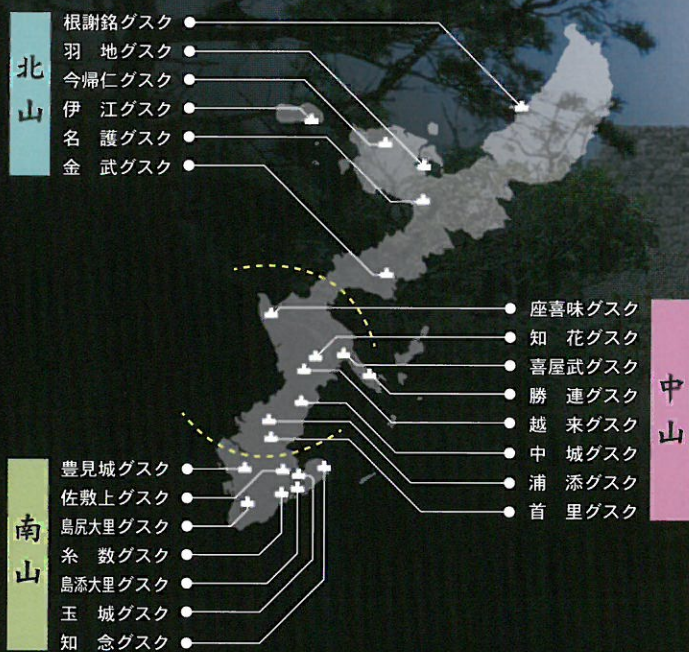


世界遺産
琉球王国のグスク及び関連遺産群
国指定史跡



座喜味城跡

■ 三山の地域概念と主要なグスク



■ 歴史年表

	8世紀			13世紀			15世紀		17世紀		19世紀		20世紀		21世紀	
日本	旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	戦国	安土桃山	江戸	明治	大正	昭和	平成
沖縄	旧石器	貝塚時代			三山 第一尚氏 グスク時代			第二尚氏 (前期)		第二尚氏 (後期)		沖縄県時代		アメリカ統治	沖縄県	

14世紀の中国の歴史書には琉球は北山、中山、南山の3国に分かれて3人の王同士が覇権を争っていたことが伝えられています。最終的には中山の尚巴志によって平定されました。座喜味城跡はグスク時代と琉球王府時代という時代の変り目に築城された城です。

あおりやへかふし 卷十三ノ六八
一きこえよんたむさ
おしやけ みあくて
たりす はりす らやれ
又とよむんたむさ
又かみのふね も、おうね
又下ふね やそおうね

17世紀初めの琉球の歌謡集『おもろさうし』に掲載された歌で、読谷山の港に南北諸地方の船が寄り集まった光景を歌っている。

【お問い合わせ】
読谷村立歴史民俗資料館(読谷村教育委員会文化振興課)
〒904-0301 沖縄県中頭郡読谷村字座喜味708-6
TEL.098-958-3141 FAX.098-982-9022
<http://www.vill.yomitan.okinawa.jp/sections/culture/post-51.html>

座喜味城は15世紀の初頭、築城家としても名高い読谷山按司護佐丸によって築かれたといわれる。護佐丸は当初、座喜味の北東約4kmにある山田城に居城していたが、1416年(1422年の説もあり)中山の尚巴志の今帰仁城(北山城)攻略に参戦し、その直後、地の利を考慮し座喜味へ築城したといわれる。1944(昭和19)年旧日本軍によって高射砲陣地となり、戦後1956(昭和31)年に琉球政府の重要文化財に指定されるが1960(昭和35)年にアメリカ軍によってレーダー基地となっ

てしまった。日本復帰の1972(昭和47)年には国指定史跡となる。翌年の1973(昭和48)年から1985(昭和60)年の間、文化庁、沖縄県の補助を受けて城跡の発掘調査や城壁修理が進められ、日常的に歴史と触れあえる空間としてよみがえった。2000(平成12)年12月2日には村民待望の「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の資産のひとつとして世界遺産に登録された。

座喜味城跡



① 二つの石造アーチ門

一の郭のアーチ門(奥)は復元されたものだが、二の郭(手前)のものはほぼ当時のものを修理した。



くさび石(二の郭アーチ門)

二の郭アーチ門天井のくさび石は三角形で、一の郭のくさび石は方形である。



曲線状の城壁

座喜味城跡の城壁は現代ダムの平面アーチ構造に類似し、脆弱な地盤の上でも強固なものとなっている。各平面アーチをつなぐ節から外敵を監視できる。



② 礎石建物跡

一の郭では幅16m、奥行き14mの建物跡が見つかった。屋根瓦は出土しておらず、建物の屋根は茅葺きか板葺きの建物だったと考えられる。



上空から見た座喜味城跡(航空写真)

座喜味城跡は名護層(赤褐色土)を基盤とする標高約120mの丘陵に立地しており、二つの郭(かこい)から構成されている。上空から見ると城壁は重厚で、曲線状につながっている。郭内の面積は城壁を含めて7,383㎡(2,234坪)、城壁は高いところで約13m、低いところで約3mである。

航空写真撮影協力: 上門工業株式会社

座喜味城跡の復元修理

復活

二の郭アーチ石門



修理前
[昭和48年撮影]



修理後
[平成26年撮影]

一の郭アーチ石門付近



座喜味城跡の石積

座喜味城では主に布積の方法で城壁が積まれているが、相方積、野面積も部分的に用いられており、沖縄のグスクで使用された石積み技術の主要な技術を見ることができる。



相方積



布積



野面積

発掘で現れた階段



一の郭に上がる階段は、旧日本軍の高射砲陣地建設の際に埋められたが、発掘によって姿を現した。



③ 寄進灯籠

護佐丸(唐名 毛国鼎)の子孫の座喜味親方盛譜(毛達徳)が1843(中国年号道光23)年に江戸参府(江戸上り)で徳川12代將軍家慶への慶賀使(副使)としての任務を無事に果たし帰国した際に領地の城内拝所に建立した。



泉(ウェーガー)

城内に泉はないが、城下には泉が多く、東側谷間のウェーガーも水源になっていたと思われる。



山田城跡(恩納村)に残る石積

護佐丸は14世紀末、山田城(現在の恩納村)で生まれたと言われている。伝承では、この城壁を解体して座喜味城に使ったと言われている。山田一帯はかつて「古読谷山」と呼ばれていた。



護佐丸の墓(中城村)

護佐丸は1440年頃、座喜味城から中城城に移ったといわれており、1458年の「護佐丸・阿麻和利の変」で命を落としたとされている。中城城跡の近くの墓に葬られている。



④ 拝所

座喜味城跡には二御前、城内火神、城内アザナイシ御イベ、読谷山城之内殿の4拝所があった。現在二の郭アーチ門前に移設されている。



出土品は中国製陶磁器(青磁、白磁、染付)、褐釉陶器、グスク土器、カムイ焼、古銭、鉄釘、米、麦、豆、獣骨などが出土した。遺物は15~16世紀頃のものまで出土しており、護佐丸が中城城に移った後にも何らかの目的で使われていたものと考えられる。